

Eureka XI

六年制通信 No.13 令和5年7月7日(金)号

やり直すなら

学生時代に戻れたら何をするか。あれもしたいこれもしたいと、できなかったことの全てをしてみたいと考えそうなものですが、実は学生時代というのは結構不自由でしてね。お金がなくて、バイトをしては本を買うのが精いっぱい、もう一度あんな暮らしをしたいかと言われれば、どちらかといえば NO です。ただ、やはりもっと勉強しておけばよかったと、それだけは心から後悔しています。本音を言えば学生時代のもっと前、小学生にまでさかのぼって勉強しておけばよかったと思います。無理やりでもいいから論語や藤村の詩や古典の名文の暗唱をさせられたかったですね。いや、別に今からでもやればいいんですけどね。唱歌もたくさん歌えるようになりたかった。そう言えば、有名な滝廉太郎の「花」は今では中3で習うらしいのですが、先ほど音楽の先生に確認したところ「ながめを何にたとうべき」の「ながめ」の「が」を特に鼻濁音で歌うように指導はしないとのこと。また、「たとうべき」は先生が「たとオベキ」と歌うから大半の生徒たちは真似て「たとオベキ」と歌うけれど仮に「たとうべき」と歌う生徒がいても敢えて直しはしないそうです。もちろん本当の歌詞は「たとふべき」ですから発音は「たとオベキ」が正しい。鼻濁音は、私は「僕が」の「が」で練習させられました。が、「が」ができるようになると麦の「ぎ」でもやらされました。昔の俳優さんや歌手の中にはちゃんと鼻濁音のできる人がいましたが、今はもうダメですね。「さすらう(ふ)」を「さすろオ」、「ながらう(ふ)」を「ながらオ」と昔の歌手の方はちゃんと発音していましたが、これまた、今はもうダメだな。君たちは音楽の時間に先生にねだってちゃんと教えてもらいなさいよ。唱歌には美しい日本語がたくさんあるので、同じ歌うなら美しい発音で歌いたいでしょ。

さて、小学生から勉強をやり直すとしたらどういうカリキュラムがいいか、なんて空想していると実に楽しい。絶対に実現できないでしょうが、いろいろとアイデアが浮かんできます。この年になって教育の基本が「読み書きそろばん」だというのは正しいと感じていますので、それが軸になりますね。そう言えば昔生徒に聞かれたことがありました。先生なら義務教育で何を教えますかと。私はまず木造の校舎がいいな。私の過ごした新町小学校(津市立。道を挟んで真ん前に津高があります)にはまだ井戸がありました。さすがに釣瓶(これ、何かわかりますか?)はなかったけれど、ポンプで汲んでいました。ああいう環境がいいなあ。もう無理でしょうけど。話がそれました、私の理想とする義務教育の話でした。まず小学校ですが、国語と算数だけを正課とします。国語には作文と暗唱が含まれます。暗唱には古文漢文の名文も含まれます。文

語文の音読も必修だな。午前中はこれでおしまい。給食はあり。午後は、理科、社会、音楽、体育その他。これらはすべて選択科目とし、取っても取らなくてもよい。早い子は午前で終わりですね。完全に能力別クラス編成で、暗唱の進むクラスはリミッターをかけずにどんどん覚えさせる。算数については、各小学校に、望む児童がいれば少なくとも中学3年生までの数学を教えられる環境を作ること。もちろん教科ごとの飛び級を認める。また、鉛筆や箸の持ち方、食事のマナー、立ち方座り方（姿勢ね）、掃除など常識的な立ち居振る舞いを準正課くらいに考えて指導する。次に中学校ですが、国語と数学と英語が必修。その他は全て選択科目で何をいくつか履修しても構わない。ここでも完全に能力別クラス編成で、少なくとも高校3年生までの数学を教えられる環境を整えること。教科ごとの飛び級あり。この制度、本気でやれば超飛び級をした森鷗外レベルの秀才が生まれる可能性もあると思いますが、HR活動が難しいかもね。クラブ活動や学園祭やその他の学校行事にも支障が出るかも。ちょっと、いやかなり現実的ではないかもしれませんが、今の制度よりも自由に学べるよね、きっと。

今週のおすすめ

・西原理恵子 『この世で一番大事な「カネ」の話』 (角川文庫)

「にしはら」ではなく「さいばら」と読むのですね。高知県出身の漫画家。私の同世代なので子どもの頃の出来事は共感できます。貧しかったですからね。もちろん私の父の世代に比べたら貧しさのレベルが違いますけどね。「貧すれば鈍す(る)」と言いますが、貧しさは人の心をも貧しくさせます。貧しさは私たちから心の余裕を奪い、正しい判断ができないようになり、果ては悪心を抱くようになるという意味です。西原さんはこの本でお金の苦労を詳しく書いています。貧乏は連鎖する、つまり次の世代にも貧乏はついてくる。なかなか抜け出せない。怖いけど説得力はありましたね。私はギャンブルに興味がないのでわからないのですが、漫画家として成功してからギャンブルで借金をする西原さんの苦労話も書かれています。

最後の方で西原さんが実際に見た、貧しいアジアで暮らす少女の話が出てきます。「スモーキーマウンテンの子どもたち」ですが、ごみの山でガスが燃え煙が立ち込める、それでスモーキーマウンテン、そこからリサイクル可能な鉄やペットボトルを取ってくる少女、マスクをせず一日働いて日本円で二百円。恐らくこの子はこの生活から抜け出せないだろうと西原さんは言います。豊かになりすぎた日本とのギャップに考えさせられます。この少女が同い年の日本人の生活を見たら何と言うでしょうね。

喜劇王チャップリンは、人が生きていく上で大切なものは何かと問われ「**Some Money, Some Courage & Big Love**」と答えています。「お金、勇気、そして大きな愛」、四回も結婚した男だから **Big Love** なのでしょう。いや、これは嫌味ですけど。とにかくお金はなくてはならないというのは正しいですね。ただ、お金もありすぎると「貧すれば鈍す(る)」の反対で「富すれば鈍す」(こんな日本語ないけど)になるような気がします。ま、私ら市井の人間には全くの杞憂でしょうがね。

BGMは 藤原さくらの *soup* でした…。